

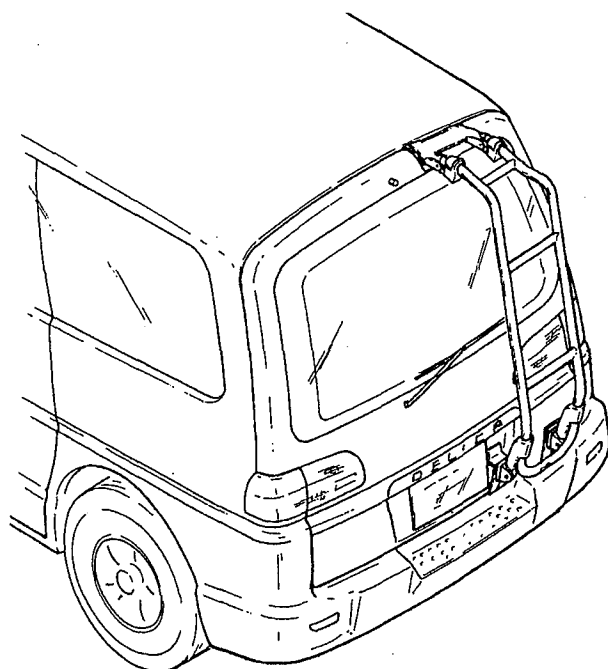
TERZO JX50
MITSUBISHI デリカ スペースギア
エアロルーフ車専用 リアラダー 取扱説明書

この度は TERZO 製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
 正しくお使い頂く為に、取扱説明書を良くお読みください。
 この取扱説明書はなくさないよう、大事に保管しておいてください。

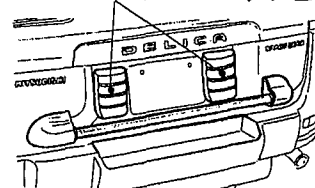
適用車種／ MITSUBISHI デリカ スペースギア エアロルーフ車専用 (ツインサンルーフ含む)
 ※ナンバープレートガーニッシュとの同時装着はできません。

年 式／ H6.5～

型 式／ PA4W、5W、PD4W、8W



ナンバープレートガーニッシュ



同時装着不可

お客様へお願い

……この商品を貸したり譲ったりする場合は、必ずこの取扱説明書を含めてお渡しください。

取付店様へお願い

……この取扱説明書は、取り付け後必ずお客様へお渡しください。

※この本文中の **△注意** マークと **△警告** マークは、取り付け上に関する重要な注意事項です。安全かつ確実に作業して頂く為、必ず厳守してください。

使用上のご注意

- 走行前及び、走行後には必ず、ボルト類のゆるみがないか、点検及び増し締めを行ない、ガタツキがない事を確認してください。ガタツキのあるまま走行すると、脱落の危険があります。必ず走行前にボルト類のゆるみがないか点検し、ゆるみがある場合は、増し締めを行なってください。
- リアラダー装着時、最高速度は法定速度以下におさえ、急旋回、急ハンドル、急発進、急ブレーキを避け、運転には充分ご注意ください。特に、急カーブや悪路、強い風、向い風を受けるような場合は、運転特性を損なう事がありますので、スピードを充分おさえ、走り続けてください。
- リアラダー装着時には、悪路等において過度な運転をすると車体に変形する恐れがありますので、絶対に過度な運転はしないでください。悪路走行時はスピードを充分おさえ、ゆっくりと走行してください。
- リアラダーには、用途に合わせた専用システムギアをご使用ください。専用システムギアをご使用頂かないと、積載物の積載はできません。
- 車両を後退させる時は、リアラダー及び、システムギアの必要スペースを考慮し、障害物等に充分ご注意ください。特に車庫入れの際は、車輪止め等に頼らず、必ず目視で後方スペースを確認しながら後退してください。
- ラダー昇降時に、ラダーに過度な衝撃は絶対に与えないでください。リアハッチが変形する恐れがあります。ラダーの昇降は、ゆっくりと静かに行なってください。
- リアラダー積載時には、洗車機での洗車はできません。洗車機での洗車は、リアハッチの変形、車室内水入り、その他が起こる場合があります。
- スキー板を積載した時には、屋根付き駐車場等の高さ制限のある場所及び、樹木が繁っている場所での走行は、特にご注意ください。
- 積載物の積み降ろしは、平らな場所を確保して行なってください。雪上等の滑りやすい場所での積み降ろしは、特に注意して行なってください。

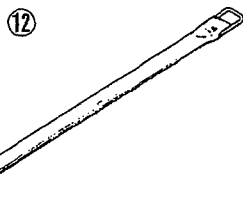
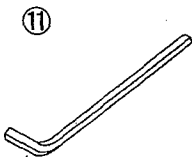
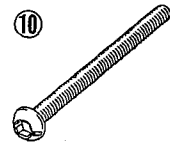
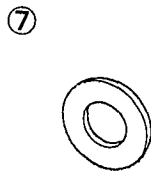
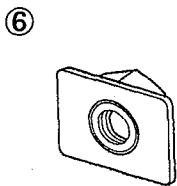
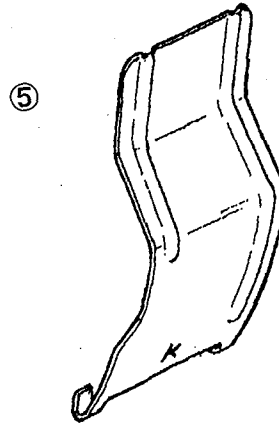
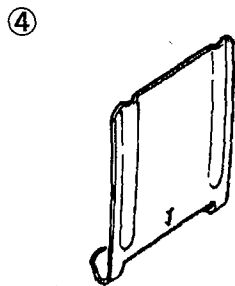
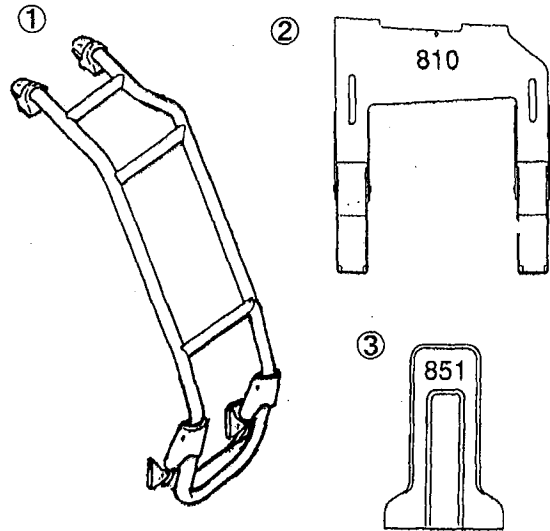
メンテナンスについて

- リアラダーは防錆性に優れていますが、長くお使い頂く為に、メンテナンスを行なってください。
- リアラダーの塗装及び、コーティングにキズ等が付きましたら、錆びの発生の原因となりますので、タッチペイント等でキズ等を修正してください。
- 汚れを拭き取る場合は、中性洗剤を使用して柔らかい布か、スポンジで拭き取ってください。尚、レザーワックス、タイヤワックス及び、シンナー等、有機溶剤は使用しないでください。
- ボルト類は、ときどき動かしてください。長期間放置しますと、異物等の付着により、動かなくなる場合があります。
- リアラダーを外して保管する場合は、泥・汚れ等を落とし、水気のない場所に保管してください。

部 品 内 容

梱包品が全部そろっている事を確認してください。
足りない場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

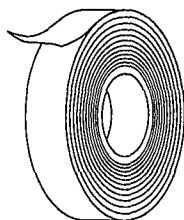
- ① リアラダー本体 1個
- ② アッパーホルダー (No. 810) 1個
- ③ ロアホルダー (No. 851) 2個
- ④ 補強プレート/ロア用 (J) 1枚
- ⑤ 補強プレート/ロア用 (k) 1枚
- ⑥ プレートナット 2個
- ⑦ 平ワッシャー (φ8) 4枚
- ⑧ スプリング 2個
- ⑨ 平ワッシャー、スプリング付
六角穴付ボルト (M8, L=35mm) 2本
- ⑩ 六角穴付ボルト (M8, L=100mm) 2本
- ⑪ 六角レンチ 1本
- ⑫ ハッチストッパー 1本
- ⑬ アッパー用ガードテープ (大) 1枚
- ⑭ ロア用ガードテープ (小) 2枚



必要工具

リアラダーの取り付けには、以下の工具をご用意ください。指定以外の工具を使用すると、車両にキズを付けたり、ボルト類破損等の恐れがありますのでご注意ください。

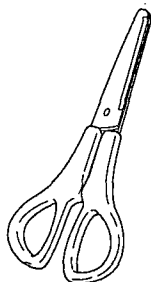
- マーキング用テープ
(ビニールテープ又は
マスキングテープ)



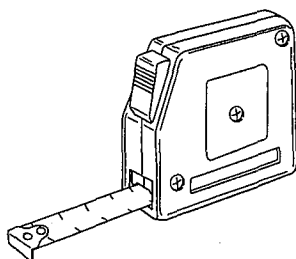
⚠注意

- マーキングに使用するテープ類は、ビニールテープ等の粘着力の弱いもの、又は車体塗装専用マスキングテープ等を使用してください。
粘着力の強いテープ（ガムテープ等）を使用すると、車体塗装を傷める場合があります。

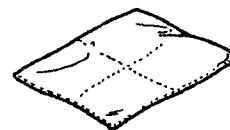
- はさみ



- メジャー

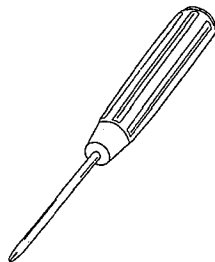


- ウエス（布やタオル）

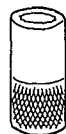


以下は、リアスポイラー装着車及びナンバープレートガーニッシュにリアラダーを取り付ける際に、必要な工具です。

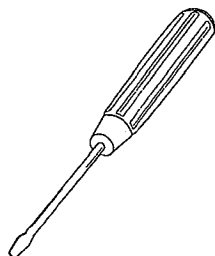
- ⊕ドライバー1本



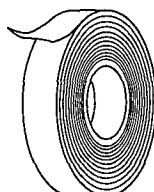
- ラチェットレンチ+ディープソケット（10mm）1本



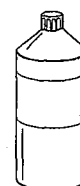
- ⊖ドライバー1本



- 保護テープ
(ビニールテープ等)



- 剥離剤



作業を始める前に……

- 車両は、ギアをニュートラル又はパーキングポジションにし、サイドブレーキをかけ、エンジンを停止させて、キー（鍵）を抜いてください。
- 作業は平らな場所で、十分なスペースと安全を確保して行なってください。
- 作業の前に、必ずリアハッチの汚れ、ほこり等をきれいに拭き取ってください。そのままリアラダーを取り付けるとリアハッチにキズが付く場合がありますので、ご注意ください。
- 作業の前に、車両に付属している車両取扱説明書等で、車両側の部品名等を確認してください。
- 作業の際に、リアラダー等で車体にキズを付けないよう充分にご注意ください。
- ボルト類の締め付けは、確実に行ってください。
- 作業は、必ず2人以上で行なってください。
- 長時間リアハッチを開けておくと、バッテリー上がりの原因となりますのでご注意ください。

注1) リアスポイラー等、車両の装備により、取り付け作業手順が異なります。
取り付ける車両の装備品を確認してください。

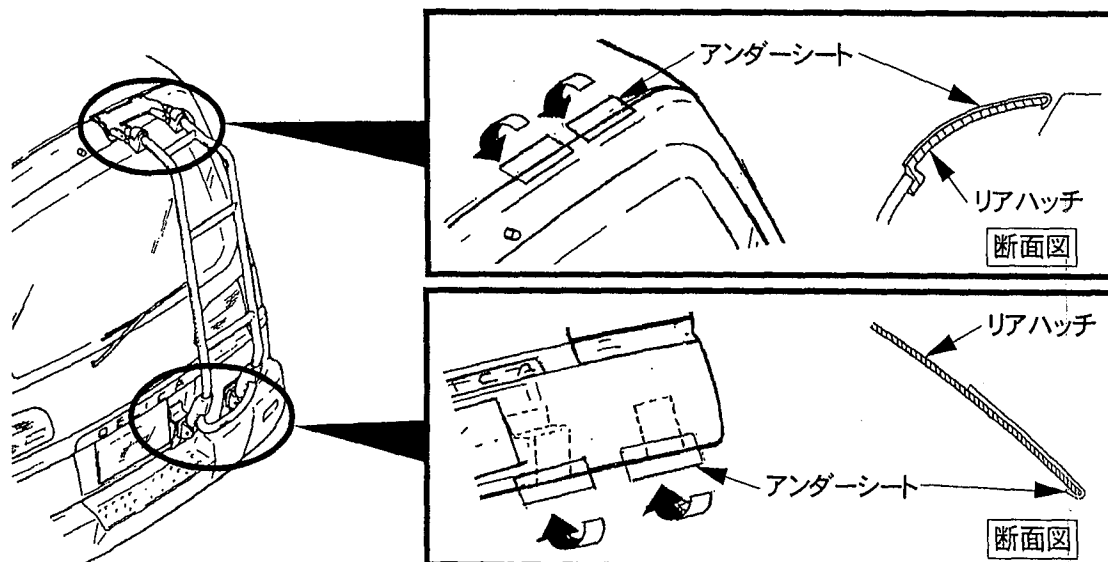
注2) 本取扱説明書中のイラストは、取り付け作業をする上で各部品及び各部分の特徴を強調する為に、実際の形状と詳細が異なる場合があります。

別売のEA19アンダーシートをご使用頂くと、リアハッチのキズ防止に役立ちます。

アッパーホルダー及び、ロアーホルダーを取り付ける部分にアンダーシートを貼り付けてください。

△注意

アンダーシートは、再塗装車には使用しないでください。
剥がす際、塗装面が剥がれる恐れがあります。



【1】 取り付け車両の準備

[1] リアスポイラーの取り外し

この作業は、リアスポイラー装着車のみ行なってください。

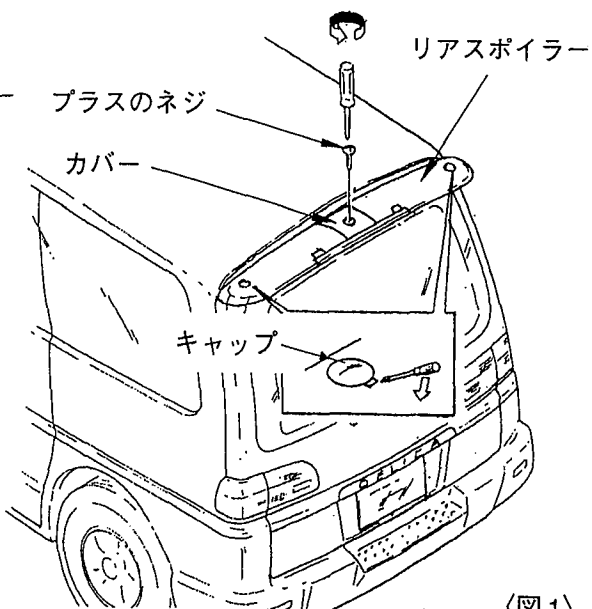
→未装着車は、8ページの作業へ進んでください。

⚠注意

- リアスポイラーが装着されている車種は、(1) から (5) の手順で取り外し、リアラダーの取り付けを行なった後、逆の手順でリアスポイラーの取り付けを行なってください。
- リアスポイラーは、衝撃が加わると破損する恐れがありますので、取り扱いには充分注意してください。
- リアスポイラーにより、車体にキズを付けないよう、ご注意ください。
- 作業中、取り外した部品類は、紛失しないようご注意ください。再度、取り付けに使用します。

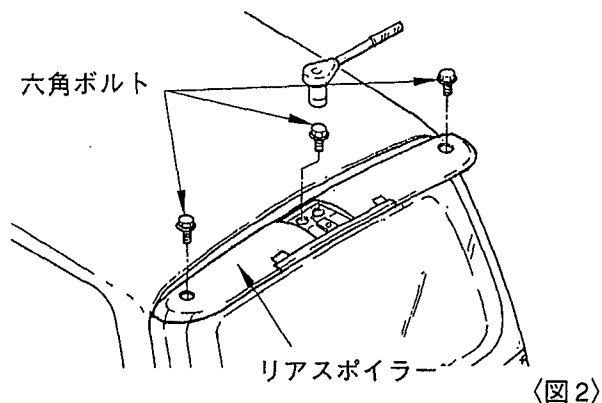
- (1) リアスポイラー両端のキャップを⊖ドライバー等で外してください。〈図1参照〉
(キズが付かないよう、ドライバー等に保護テープを巻いてください。)

- (2) リアスポイラー中央のカバーがプラスのネジで止まっていますので、⊕ドライバーでカバーを外してください。〈図1参照〉



〈図1〉

- (3) リアスポイラーを止めている六角ボルト3本をディープソケットのラチェットレンチ(10mm)で外してください。(図2参照)

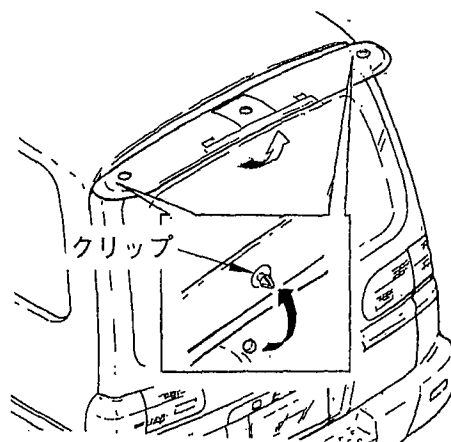


〈図2〉

- (4) リアスポイラーを上引っ張り、リアスポイラー内側のクリップ2カ所を外してください。(図3参照)

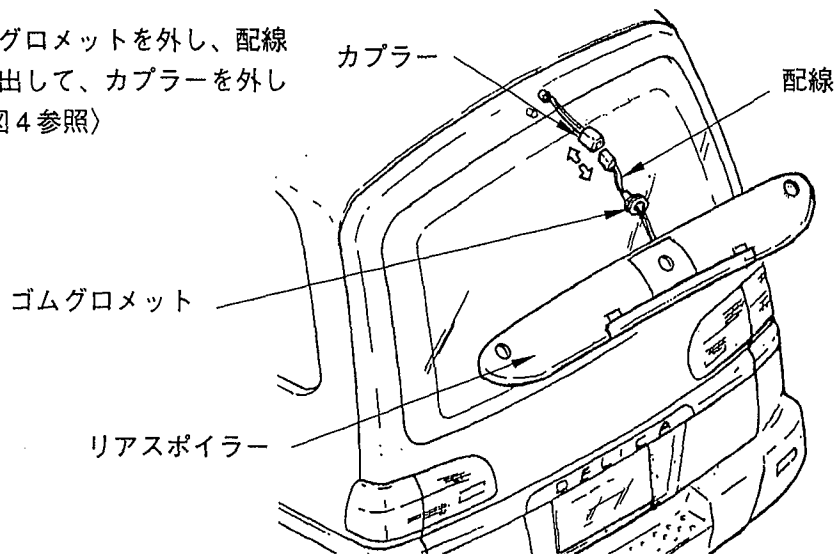
注意

リアスポイラーの中央部から車両へ配線がありますので、引っ張り過ぎないようにご注意ください。



〈図3〉

- (5) リアハッチ側のグロメットを外し、配線をゆっくり引き出して、カプラーを外してください。(図4参照)



〈図4〉

[2] ナンバープレートガーニッシュの取り外し

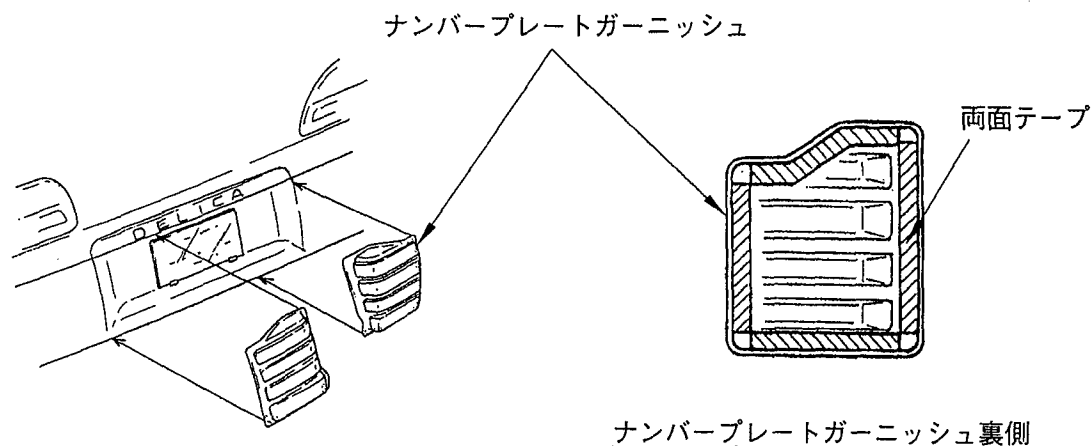
この作業は、ナンバープレートガーニッシュ装着車のみ行なってください。

→未装着車は、9 ページの作業へ進んでください。

⚠注意

- ナンバープレートガーニッシュが装着されている車種は、次の手順で取り外してください。
- ナンバープレートガーニッシュは衝撃が加わると破損する恐れがありますので、取り扱いには充分注意してください。
- ナンバープレートガーニッシュにより、車体にキズを付けないよう、ご注意ください。
- 取り外したナンバープレートガーニッシュは、大事に保管しておいてください。
- ナンバープレートガーニッシュは強力両面テープで貼り付けられている為、無理に剥がそうとするとナンバープレートガーニッシュが割れる恐れがありますので、充分ご注意ください。
又、剥離剤を使用する際、塗装面に異常がでないか目立たない場所で試してから使用してください。

(1) ナンバープレートガーニッシュは両面テープで貼り付けされていますので、剥離剤を浸しながら、ゆっくりと少しずつ剥がしてください。(図5参照)

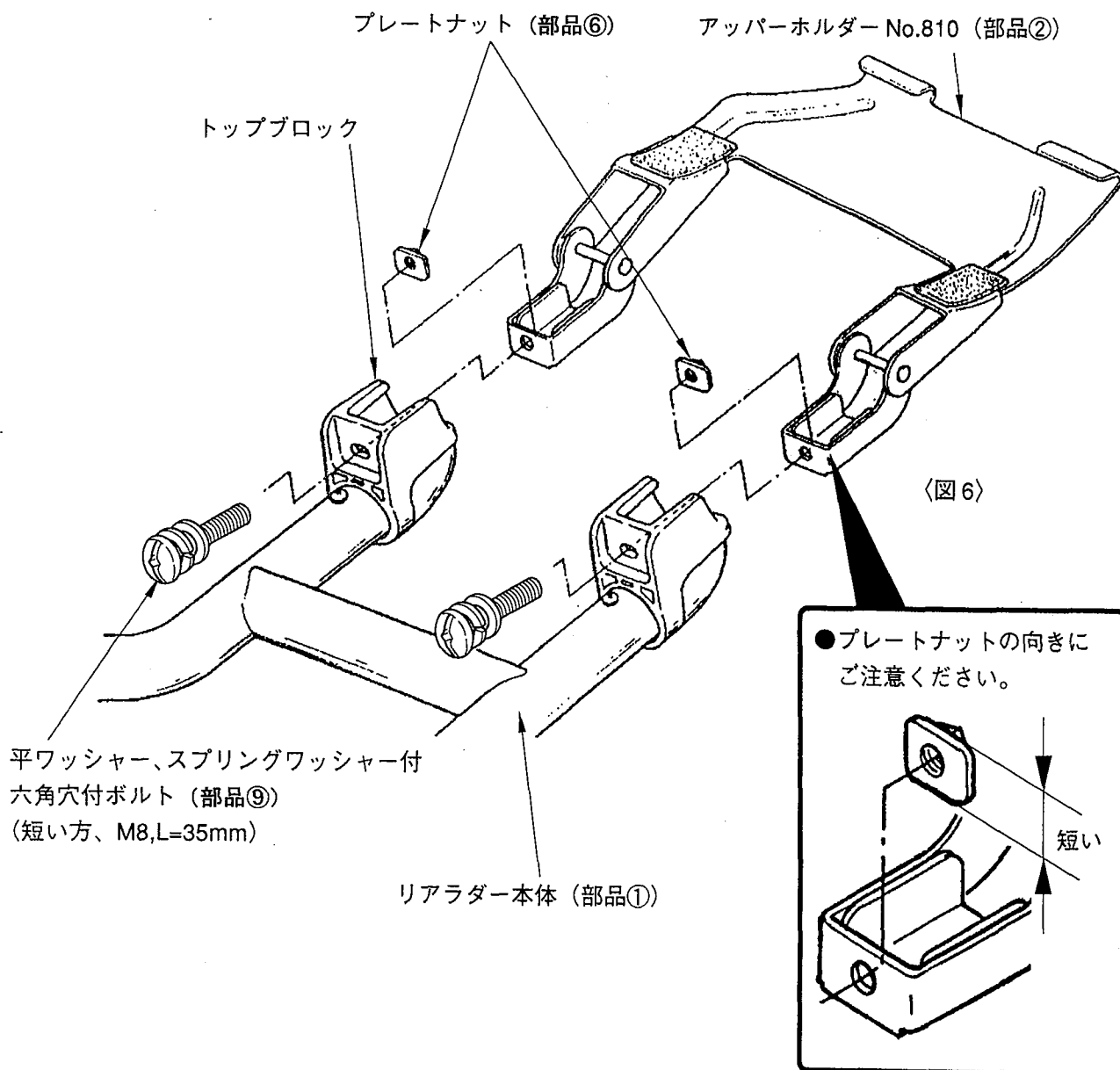


〈図5〉

【2】リアラダーの取り付け

[3] アッパーホルダーの取り付け

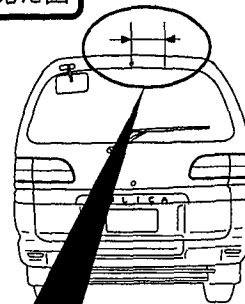
リアラダー本体（部品①）先端のトップブロック（左右共）に、アッパーホルダー（部品②）を平ワッシャー、スプリングワッシャー付六角穴付ボルト（部品⑨、短い方、M8,L=35mm）、プレートナット（部品⑥）にて、しっかりと固定してください。（図6参照）



[4] ガードテープの貼り付け

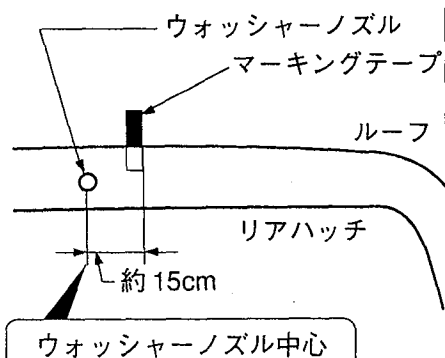
リアラダーを取り付けた際に、アッパーホルダーとルーフがこすれた場合のキズ付きを防ぐ為に、ルーフに、アッパー用ガードテープ（大）（部品⑬）を1枚貼り付けます。〈図7-1参照〉
貼り付け位置を図のようにマーキングし、ガードテープ裏の保護紙を剥がしてルーフに貼り付けてください。ガードテープ貼り付け後、マーキングテープを剥がしてください。

真後ろから見た図



ルーフ への貼り付け

※マーキングテープを貼る位置にご注意ください。

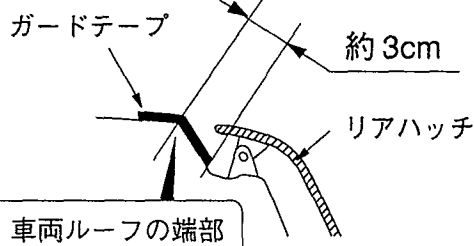


ルーフ上から見た拡大図

約15cm

- 車両ルーフの端部から約3cmリアハッチ側へ落としこんで貼り付けてください。

断面図



〈図7-2〉

ガードテープ（部品⑬）

〈図7-1〉

ウォッシャーノズルの中心を基準にする

⚠️ 注意

- ガードテープを貼り付ける前に、必ずルーフの汚れ、ほこり等をきれいに拭き取ってください。そのままガードテープを貼り付けると十分な接着状態が得られず、ガードテープが剥がれる恐れがあります。
- マーキングに使用するテープ類は、ビニールテープ等の粘着力の弱いもの、又は車体塗装専用マスキングテープ等を使用してください。粘着力の強いテープ（ガムテープ等）を使用すると、車体塗装を傷める場合があります。

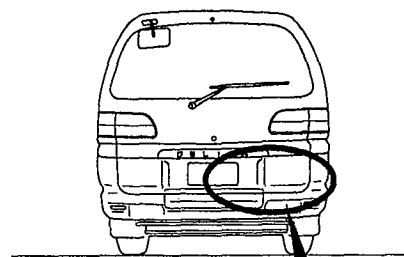
[4] ガードテープの貼り付け (つづき)

ローホルダー及び補強プレート/ロー用とバンパーがこすれた場合のキズ付きを防ぐ為に、バンパーにロー用ガードテープ(部品⑭)を2枚貼り付けます。

〈図7-3及び、図7-4、図7-5参照〉

ガードテープ裏の保護紙を剥がして貼り付けてください。

真後ろから見た図



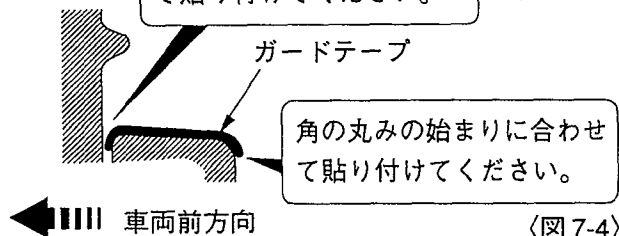
バンパーへの貼り付け

バンパーを横から見た拡大図

- ガードテープの前後方向は、下図位置を基準として、貼り付けてください。

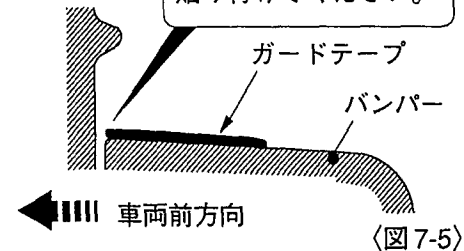
左側ガードテープ

余った分は裏側へ回し込んで貼り付けてください。



右側ガードテープ

奥側の端部に合わせて、貼り付けてください。

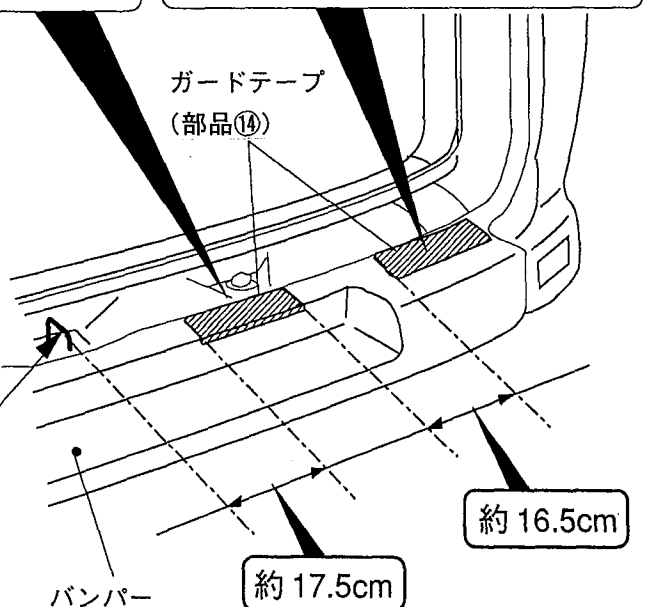


斜め後ろから見た拡大図

(テールゲートを開けた状態)

テールゲートをロックするU字金具の延長線を基準にし、約17.5cm右の図示位置へ1枚貼り付け、その貼り付けたガードテープの右端部から約16.5cm右へさらに1枚貼り付けてください。

U字金具



〈図7-3〉

⚠️注意

- ガードテープを貼り付ける前に、必ずバンパーの汚れ、ほこり等をきれいに拭き取ってください。そのままガードテープを貼り付けると十分な接着状態が得られず、ガードテープが剥がれる恐れがあります。

[5] 補強プレート／ロアー用の取り付け

リアハッチのアームベースがのる位置に、補強プレートを貼り付けます。

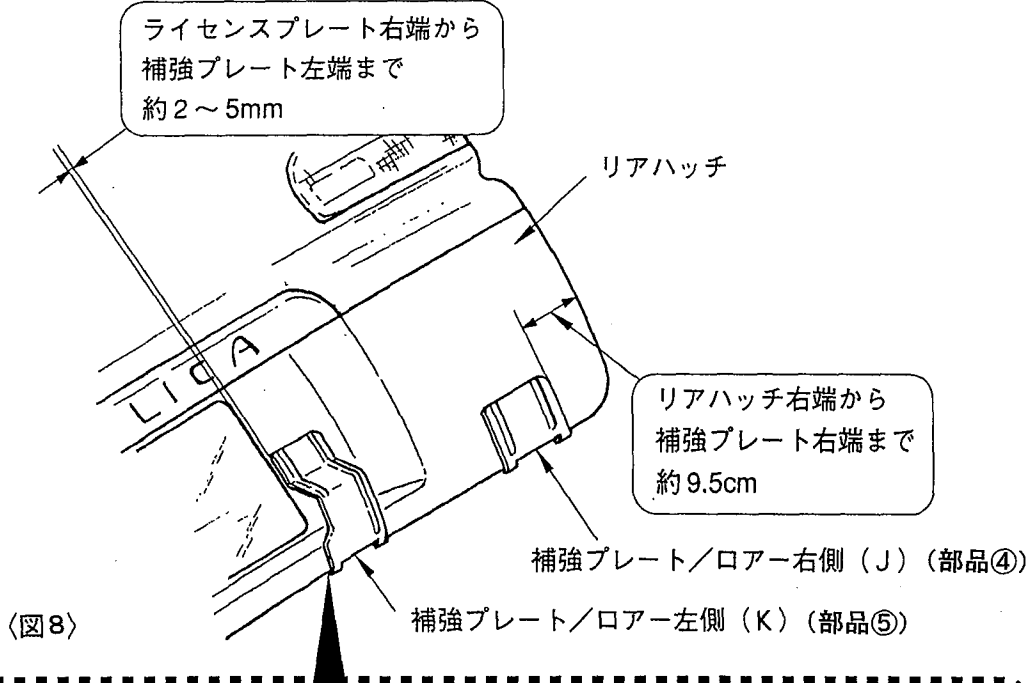
⚠️注意

- 貼り付け位置は、間違わないように確実に指定位置に貼り付けてください。間違えた場合は、速やかに剥がし、貼り直してください。時間が経過して、完全に貼り付いてしまった場合は、剥離剤等を浸しながらゆっくりと剥がしてください。(剥離剤を使用する際は、目立たない場所で塗装面に異常がでないかどうか試してから使用してください。) その場合、両面テープは再生不可となりますので、別にご用意ください。

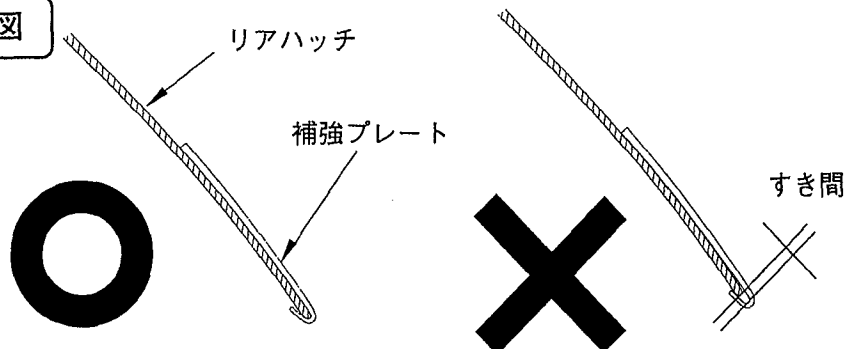
〈1〉 補強プレート／ロアー用、裏面の保護紙を剥がし、リアハッチの〈図8〉に示す位置に、引っ掛けながら貼り付けてください。(図8参照)

⚠️注意

- 右側に補強プレート (J) を、左側に補強プレート (K) を貼り付けてください。

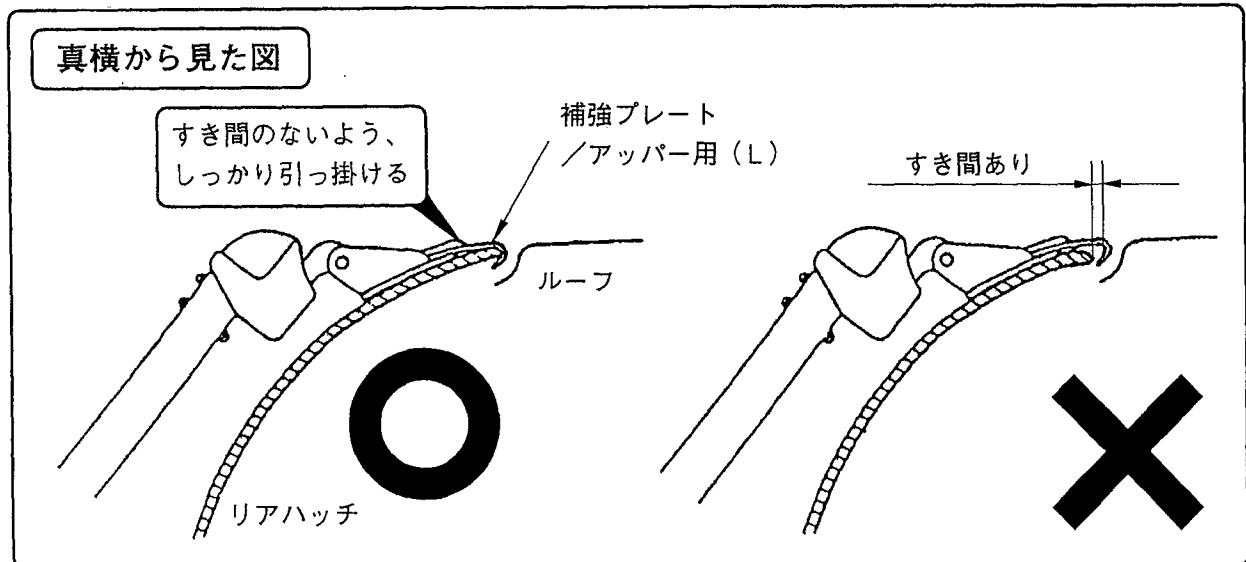
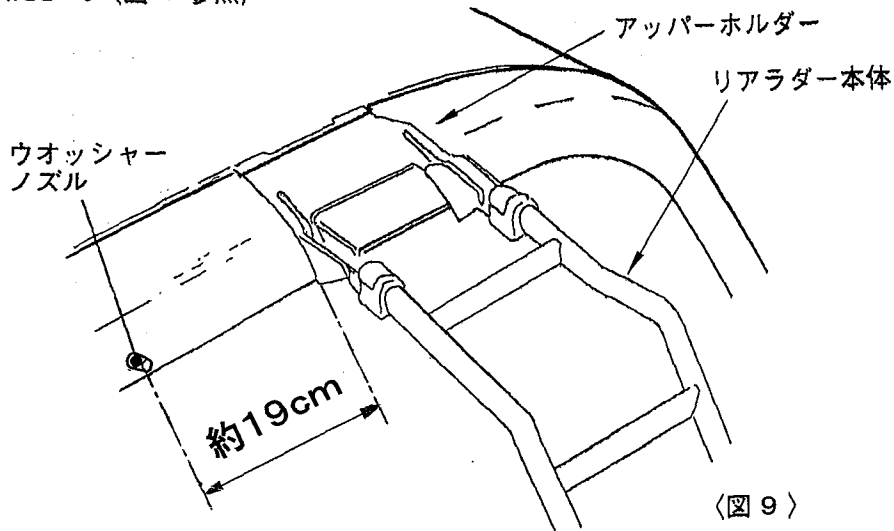


真横から見た図



[6] リアラダー本体の取り付け

[3] でリアラダー本体に固定したアッパーホルダーの先端を下記の寸法に従って、リアハッチに確実に引っかけてください。(図 9 参照)



⚠️ 注意

すき間が狭く引っ掛けられない

アッパーホルダー

ルーフ

リアハッチ

すき間狭い

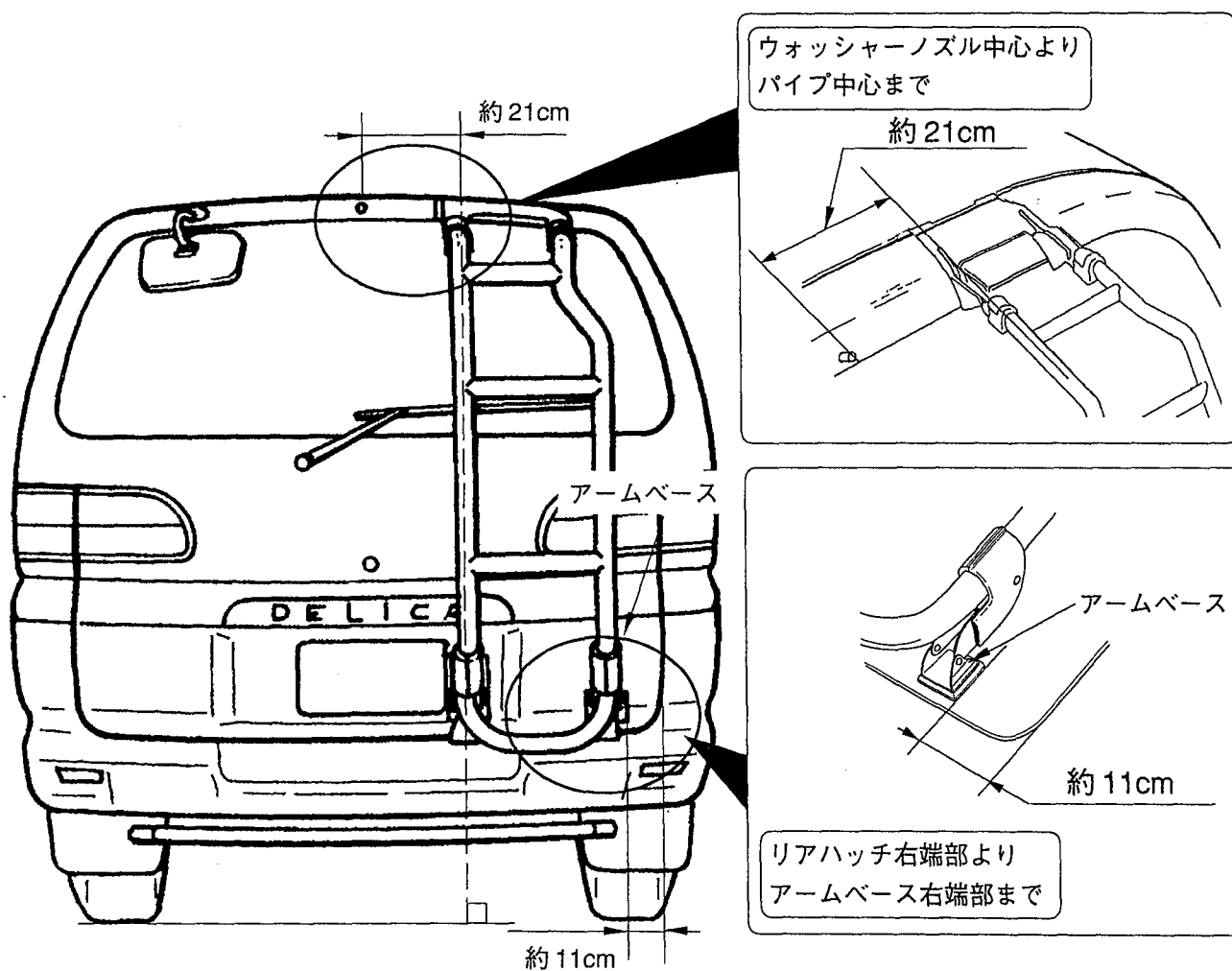
リアハッチとルーフのすき間が狭く、アッパーホルダーが引っ掛けられない場合は、無理に引っ掛けず、後述の『**[2]-[8] アッパーホルダー接触確認**』の注意項目を参照してください。

[7] リアラダー本体の位置決め

〈図10〉を参考に、リアラダー本体の位置決めを行なってください。

⚠注意

- ホルダー形状により、この図の位置以外には取り付けできません。指定位置以外に取り付けると、リアハッチの変形につながります。
- 車体のバラツキ等により、リアラダー本体の取り付け位置が、左右に5mm～1cm程度前後する事があります。
- リアラダーが地面に対して垂直になっているか、後ろ正面から確認してください。
- アームベースのゴムベースが外れないようご注意ください。



〈図10〉

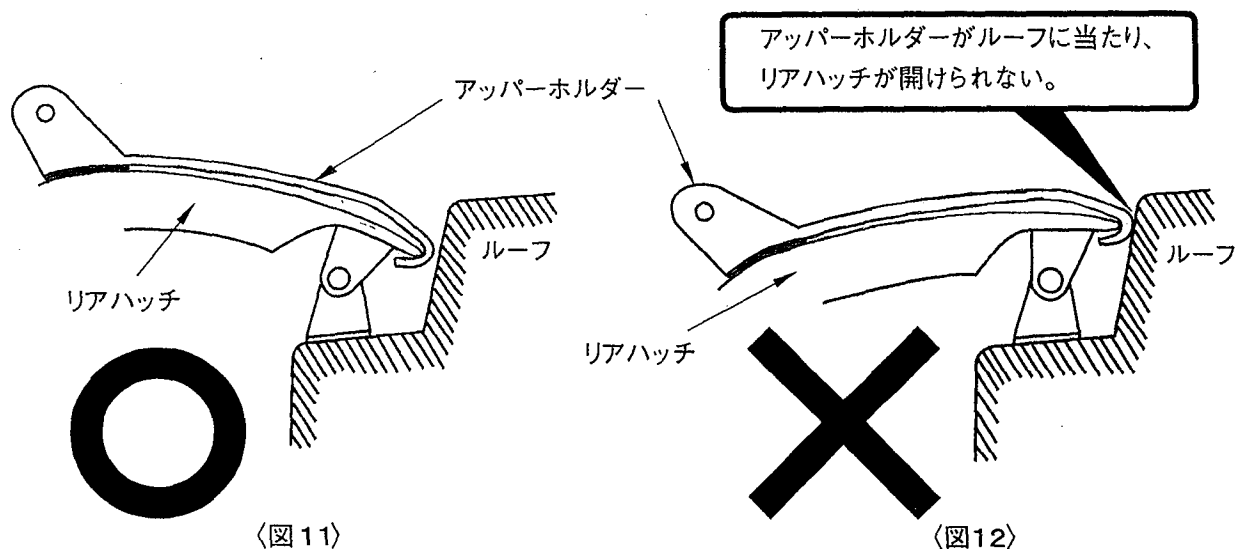
- リアラダーが地面对して垂直(90°)になっているか、後ろ正面から確認してください。
- アームベースが補強プレートにきちんとのっているか確認してください。〈図16参照〉

[8] アッパーホルダー接触確認

リアハッチをゆっくりと開け、アッパーホルダー及び補強プレート/アッパー用と車両ルーフが接触しないかどうか確認してください。

接触し、リアハッチを開けられない場合は、無理に開けようとせず、下記「アッパーホルダーが接触する場合には…」をご参照ください。〈図11及び図12参照〉

無理に開けようとすると、車体にキズを付れたり、破損する恐れがあります。

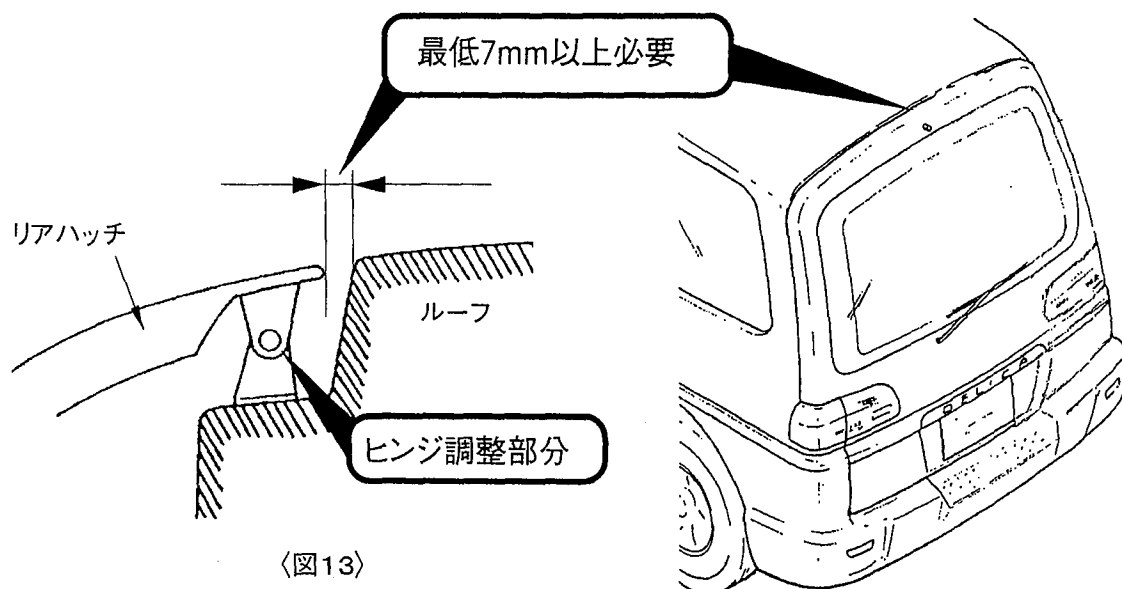


⚠️注意

アッパーホルダーが接触する場合には…

車両側のバラツキにより、リアハッチとルーフのすき間が狭い場合があります。その場合、アッパーホルダー及び補強プレートと車体側が接触し、車体をキズ付れたり、破損したりする恐れがありますので、必ず、カーディーラー等でリアハッチのヒンジ調整を行ない、すき間を最低でも7mm以上に広げてください。

ヒンジ調整後、改善されていない場合は、接触しなくなるまで広げてください。〈図13参照〉



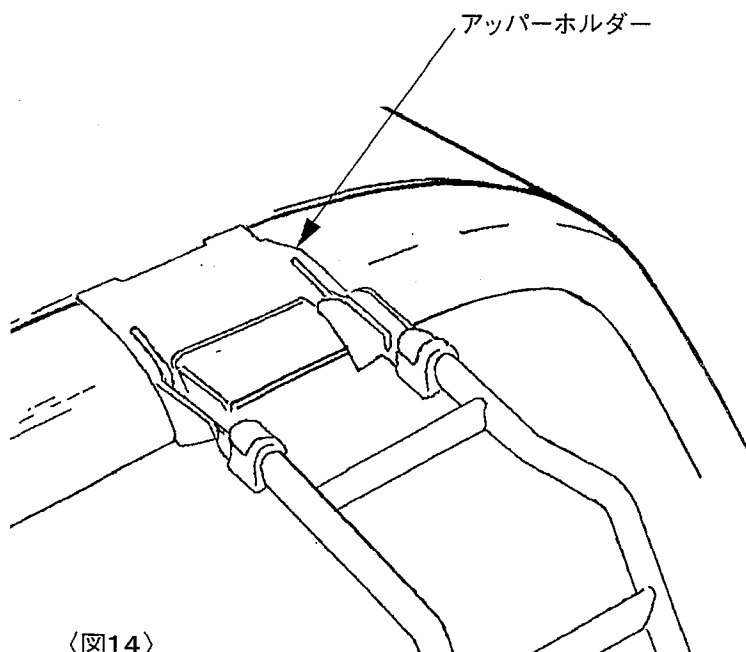
[9] リアラダー本体の固定準備

再度、リアラダーをリアハッチに引っ掛け、前述の14ページの〈図10〉を参照して、再度、位置決めを行ない、リアラダーのアームベースを補強プレート/ロアー用のにせてください。

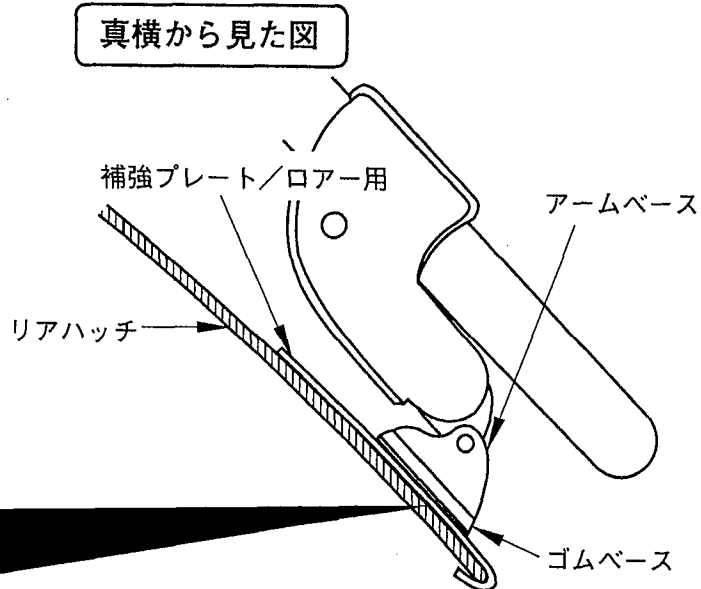
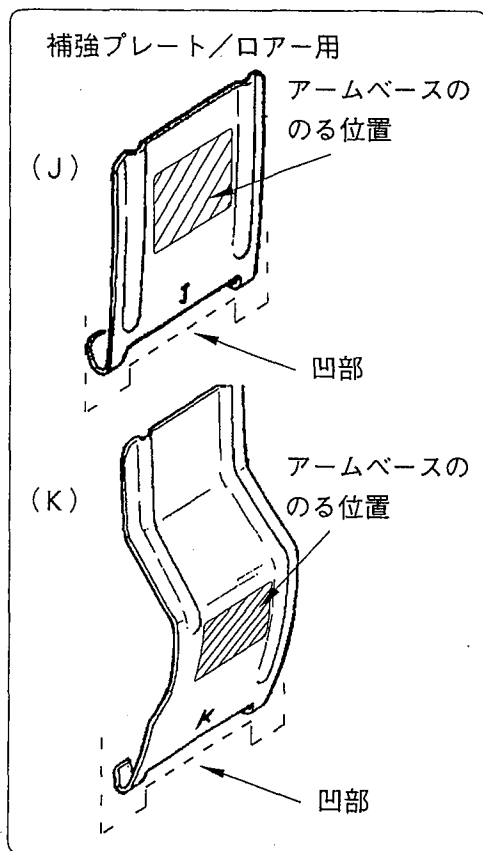
〈図14 及び図15参照〉

⚠️注意

- アームベースのゴムベースが外れないよう、ご注意ください。
- 車体に対して、リアラダー本体が垂直になっているか、後正面から確認してください。



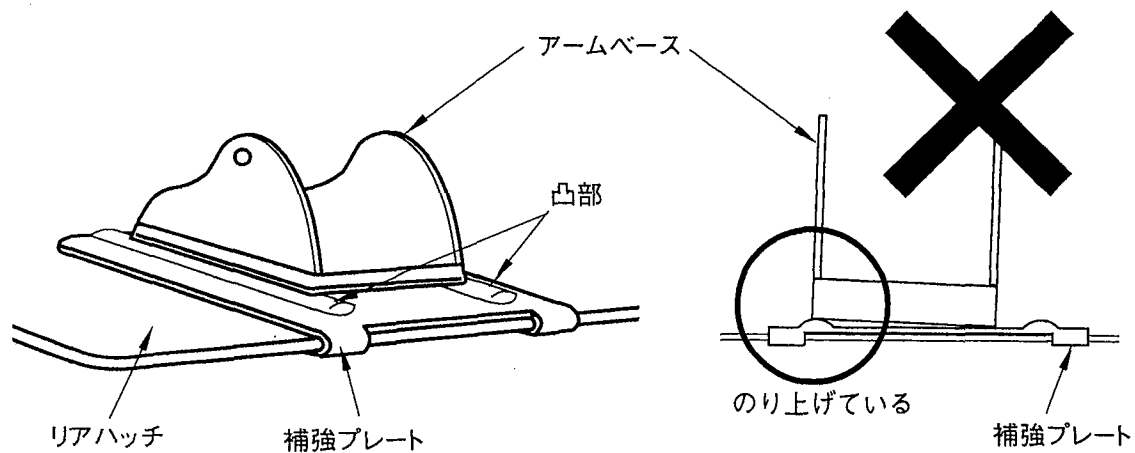
〈図14〉



〈図15〉

⚠注意

- アームベースの位置が〈図16〉のように、補強プレート／ロアー用の凸部にのり上げてしまう場合、『【2】 - 【7】 リアラダー本体の位置決め』に戻り、再度やり直してください。



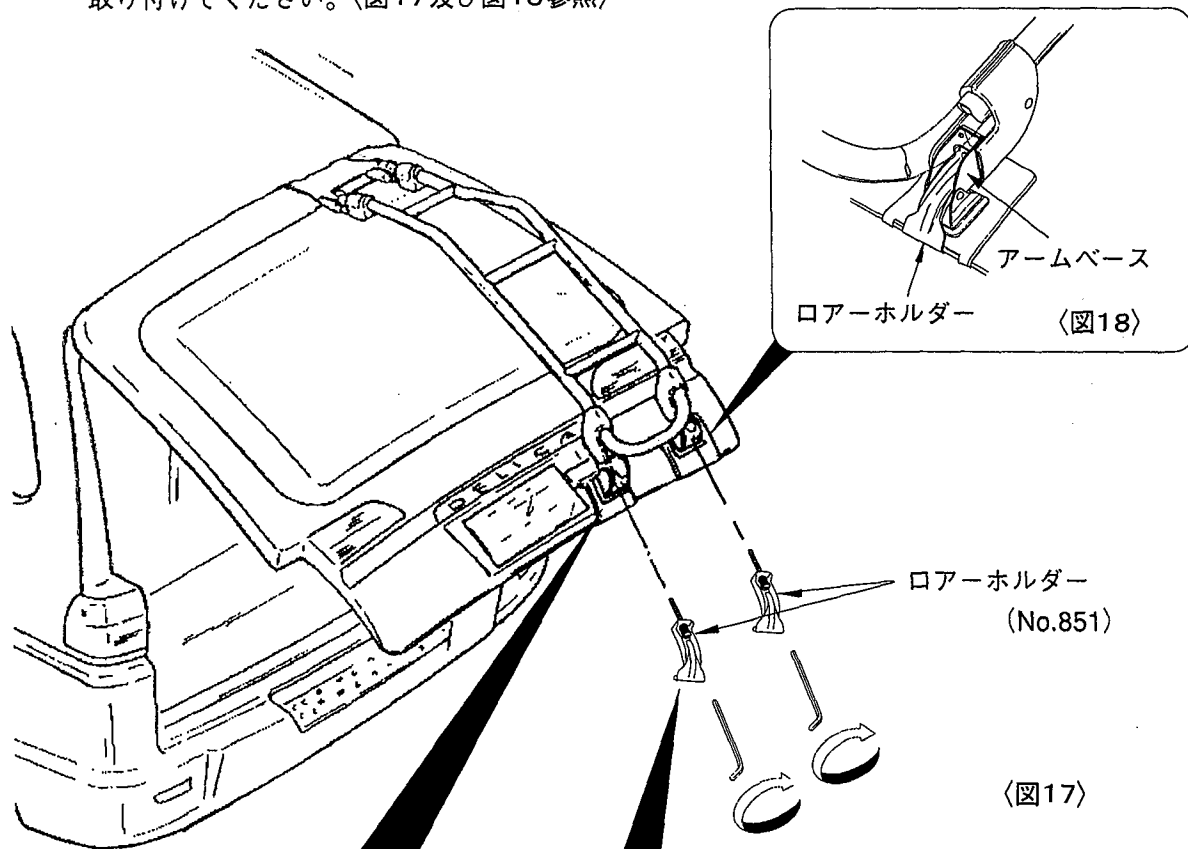
〈図16〉

[10] リアラダー本体の固定

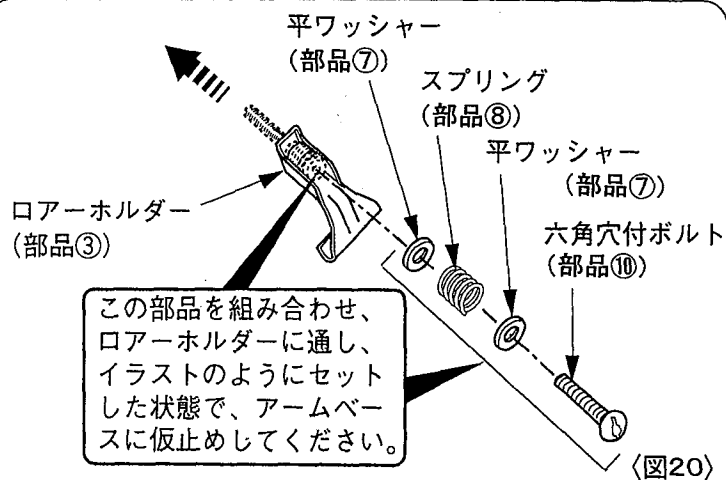
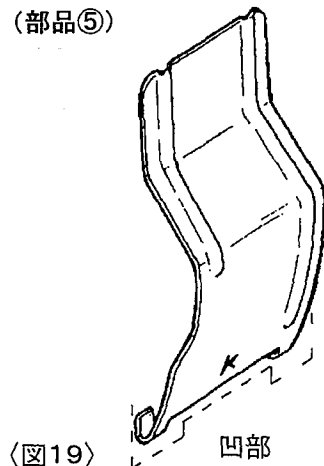
〈1〉 リアハッチを半分程度まで、ゆっくりと開けてください。

〈2〉 ロアーホルダー（部品③）に、六角穴付ボルト（部品⑩、M8,L=100mm）、スプリング（部品⑨）、平ワッシャー（部品⑦）をセットしてください。〈図20参照〉

〈3〉 ロアーホルダーを補強プレート／ロアー用の凹部分（図19参照）のリアハッチに確実に引っ掛けながら、前項〈2〉でロアホルダーにセットした六角穴付ボルトをアームベースのナット部に取り付けてください。〈図17及び図18参照〉



補強プレート／ロアー用 (K)
(部品⑤)

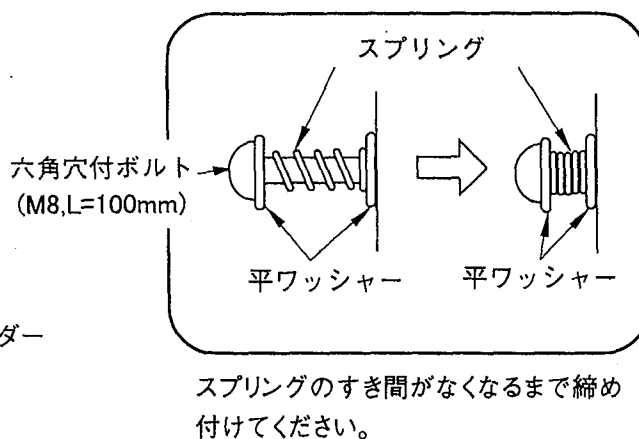
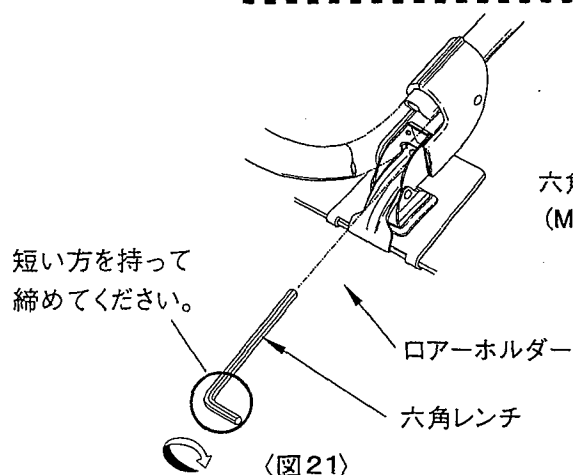


[11] ロアーホルダーの締め付け

ロアーホルダーを左右交互に均等に少しずつ締め付けてください。
 スプリングのすき間がなくなるまで締め付けたら、一度リアラダーをゆすり、しっかりと固定されているか確認してください。
 ガタツキがある場合は、様子を見ながら少しずつ（1～2回転ずつ）左右均等に増し締めしてください。
 〈図21及び図22参照〉

⚠️ 注意

- ロアーホルダーを必要以上に締め過ぎると、凹みや曲がり等のリアハッチ損傷の原因となる場合があります。
- 締め付けの際の六角レンチは、短い方を持って締め付けてください。長い方を持って締め付けると、締め過ぎる場合があります。



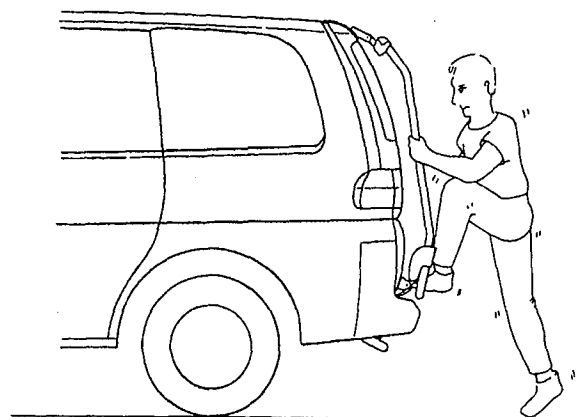
[12] リアラダーの増し締め

リアラダーを固定したら、リアラダーにゆっくりと力をかけ、ロアーホルダーにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、『[2] - [11] ロアーホルダーの締め付け』に従って、増し締めを行なってください。〈図23参照〉

⚠️ 警告

テールゲートの開閉を頻繁に行なっていると、ゆるみが発生する場合がありますので、走行前にロアーホルダーのゆるみがないかどうか、点検を行なってください。

又、システムギアを使用し、スキー板、スノーボード積載時には走行前、走行後に必ず点検し、ゆるみがある場合には増し締めを行なってください。

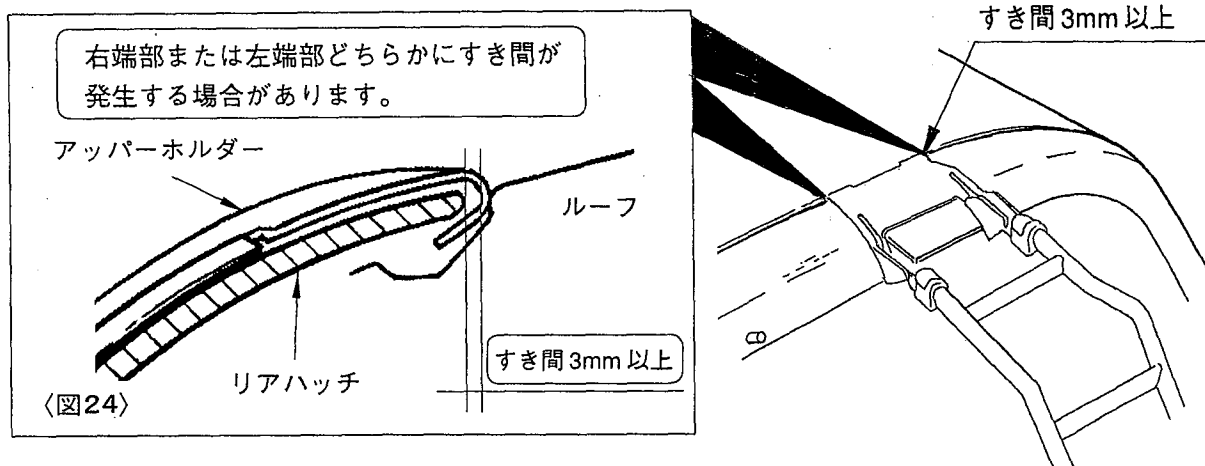


[13] リアラダー本体の取り付け確認

ロアーホルダー締め付け完了後、車体側のバラツキ等により、真上から見てアッパーホルダーとリアハッチ端部との間にすき間（3mm以上）が発生してしまう場合があります。

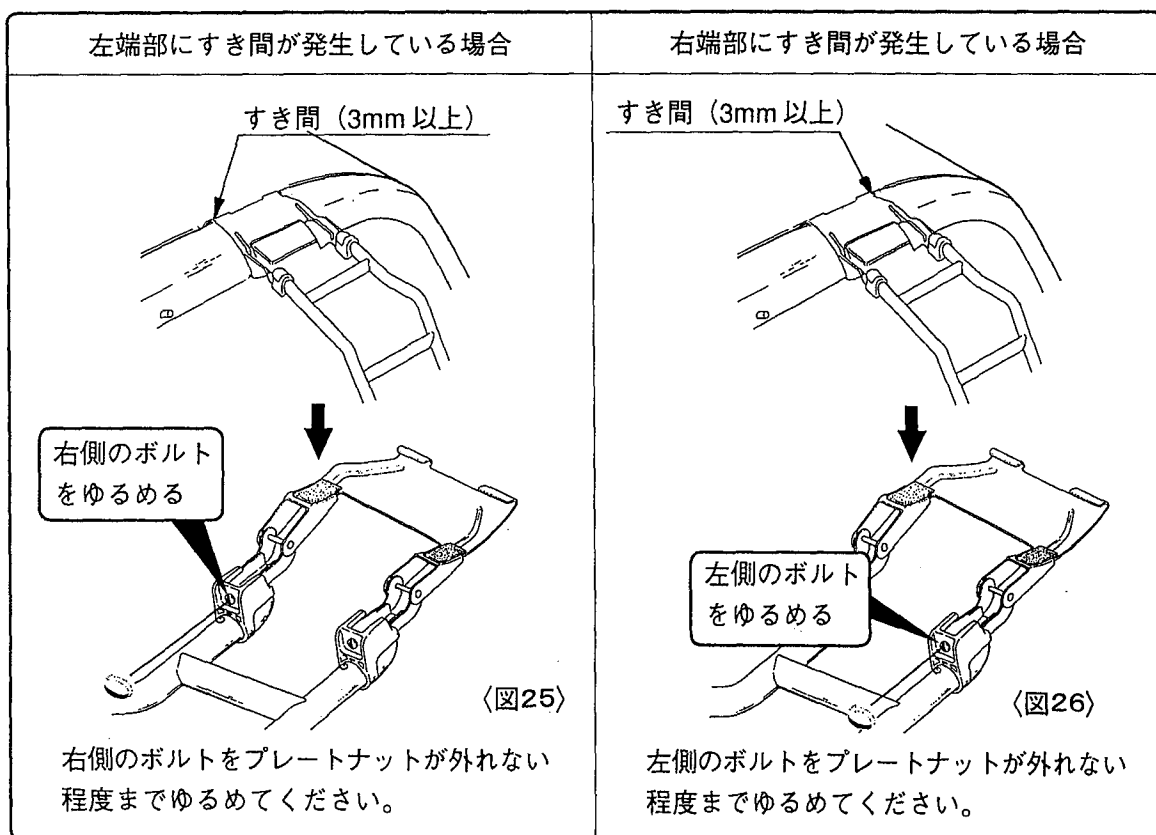
その場合、リアハッチを開けると、アッパーホルダーとルーフが干渉し、リアハッチ損傷の恐れがありますので、リアハッチを開けずに、下記の『リアラダー調整方法』に従って、調整を行なってください。

〈図24参照〉

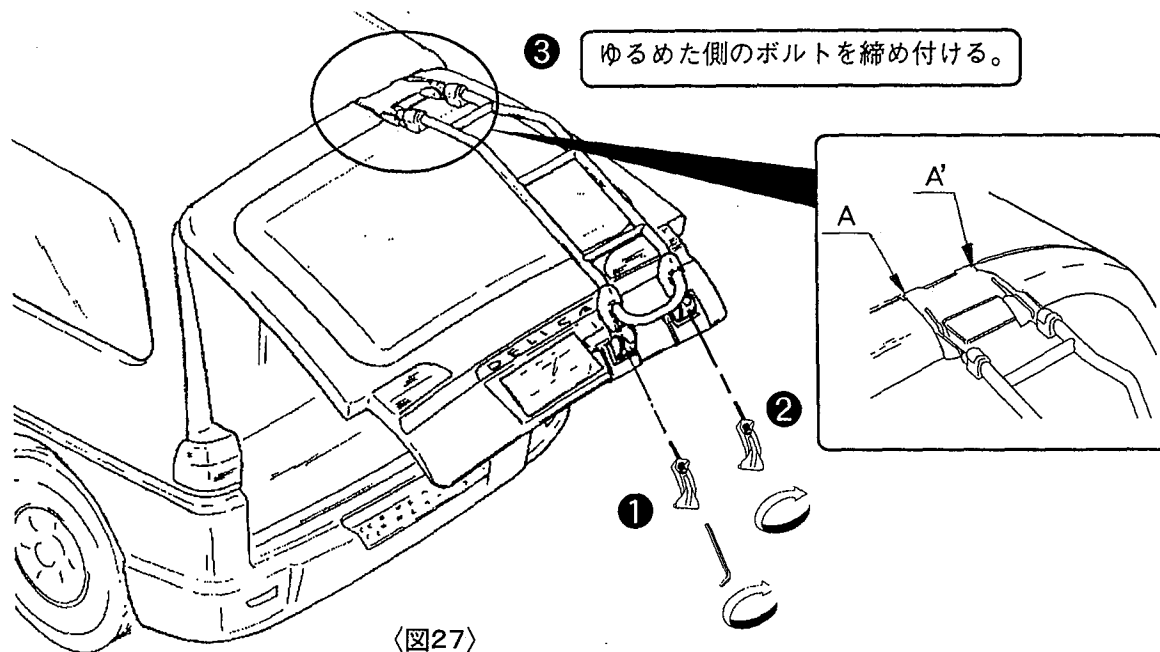


リアラダーの調整方法

- 1 アッパーホルダーのすき間（3mm以上）が右端部又は左端部のどちらに発生しているのか確認した後ロアーホルダーをゆるめ、リアラダーを1度降ろしてください。
- 2 下記に従って、アッパーホルダーを止めているボルトを外れない程度にゆるめてください。
〈図25及び図26参照〉



- ③ 『【2】 - 【7】 リアラダー本体の位置決め』に従って、再度リアラダーをリアハッチに取り付けてください。
- ④ リアハッチを半分程度までゆっくりと開けてください。
ロアーホルダー 2 ヶ所及びゆるめた側のボルト（合計3ヶ所）を少しずつ①②③の順序で、スプリングワッシャー及びスプリングがつぶれる程度まで締め付けてください。
〈図27参照〉
- ⑤ アッパーホルダーのすき間(A-A')が左右均等になったところでアッパーホルダーの締め付けを止め、ロアーホルダーのみを左右交互（①②の順序）に均等にガタツキがない程度までゆっくりと締め付けてください。〈図27参照〉



〈図27〉

⚠注意

- 締め付けの際は、『【2】 - 【10】 リアラダー本体の固定』及び『【2】 - 【11】 ロアーホルダーの締め付け』を参照して行なってください。

- ⑥ アッパーホルダーにすき間がない事を確認してください。

- アッパーホルダーのすき間（3mm以上）が解消していない場合には、「リアラダーの調整方法①」に戻り、再度取り付け直してください。

- ⑦ ロアーホルダー固定後、リアハッチをゆっくりと開け、アッパーホルダーとルーフが干渉しない事を確認してください。

- 以上の作業を行ってもアッパーホルダーとルーフが干渉し、リアハッチがいっばいに開けられない場合は、『【2】 - 【8】 アッパーホルダー接触確認』のヒンジ調整が必要となりますので、カーディーラー等にご相談ください。

[14] リアスポイラーの取り付け

この作業は、リアスポイラー装着車のみ行なってください。

→未装着車は作業終了です。

⚠注意

- リアスポイラーは、衝撃が加わると破損する恐れがありますので、取り扱いには充分注意してください。
- リアスポイラーにより、車体にキズを付けないよう、ご注意ください。

リアラダーを車体にしっかりと固定しましたら、リアスポイラーを外し方と逆の手順で元通りに取り付けてください。

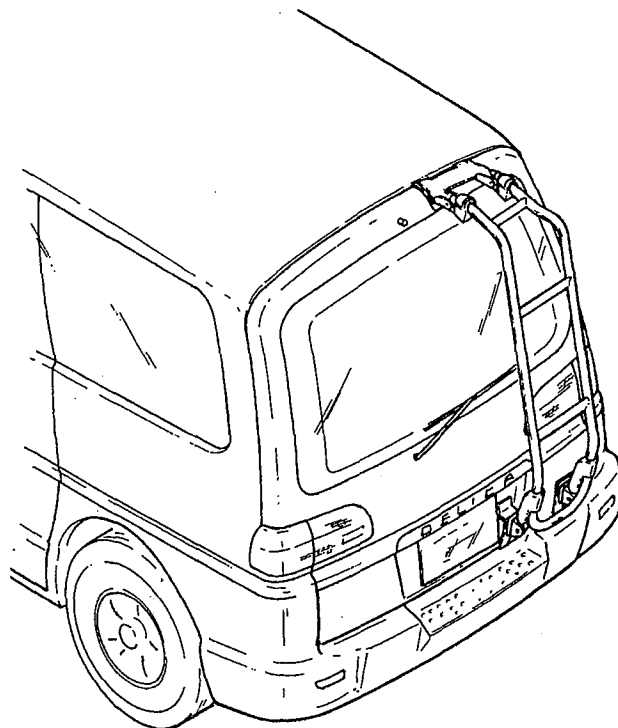
※この時、リアスポイラーの配線をはさまないようにご注意ください。

作業完了&完成

以上で作業は完了しました。〈図28参照〉

⚠注意

後述の『[3] ハッチストッパー使用方法』及び『警告事項』をお読みください。



〈図28〉

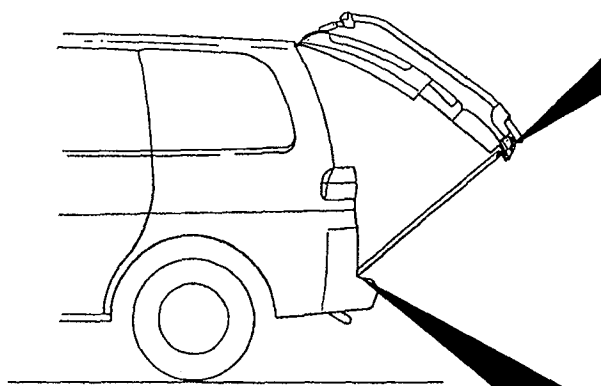
【3】ハッチストッパー使用方法

警告

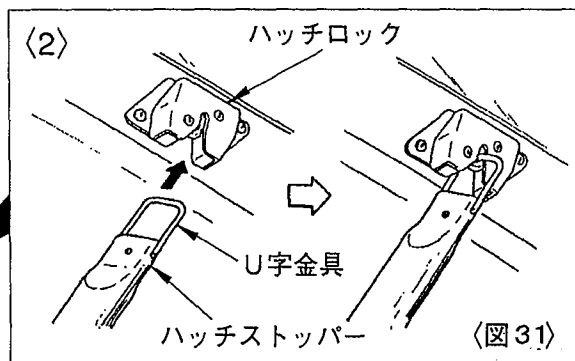
- リアラダー装着時にリアハッチを開ける際は、必ずハッチストッパーを使用してください。
リアラダーの重さにより、リアハッチが急に下がる場合があり、大変危険です。
- ハッチストッパーを使用する場合は、確実にセットし、又、荷物の出し入れの際には、不意に外れないよう充分にご注意ください。
リアハッチが急に下がると大変危険です。
- 別売のシステムギアを使用し、スノーボード、スキー板、又は、自転車を積載している場合は、リアハッチの開閉はできません。
リアハッチに大きな荷重がかかる為、ハッチストッパーを使用すると、外れる恐れがあり、大変危険です。
リアハッチを開ける際は、必ずスノーボード、スキー板、又は自転車を降ろし、ハッチストッパーを使用してください。

ハッチストッパーの取り付け方

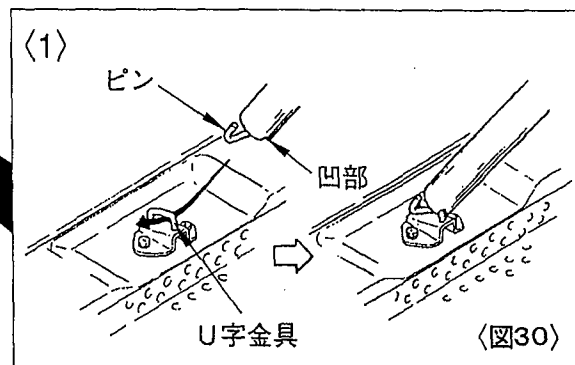
- 〈1〉リアハッチをいっばいに開け、支えながら車両側のU字金具にハッチストッパーの凹部が入るように、ハッチストッパーのピンをU字金具に通してください。〈図30参照〉
- 〈2〉リアハッチを押し下げ、リアハッチ裏側のハッチロックにハッチストッパーのU字金具を「カチッ」と音がするまで押し込んでロックしてください。〈図31参照〉



〈図29〉



〈図31〉



〈図30〉

ハッチストッパーの取り外し方

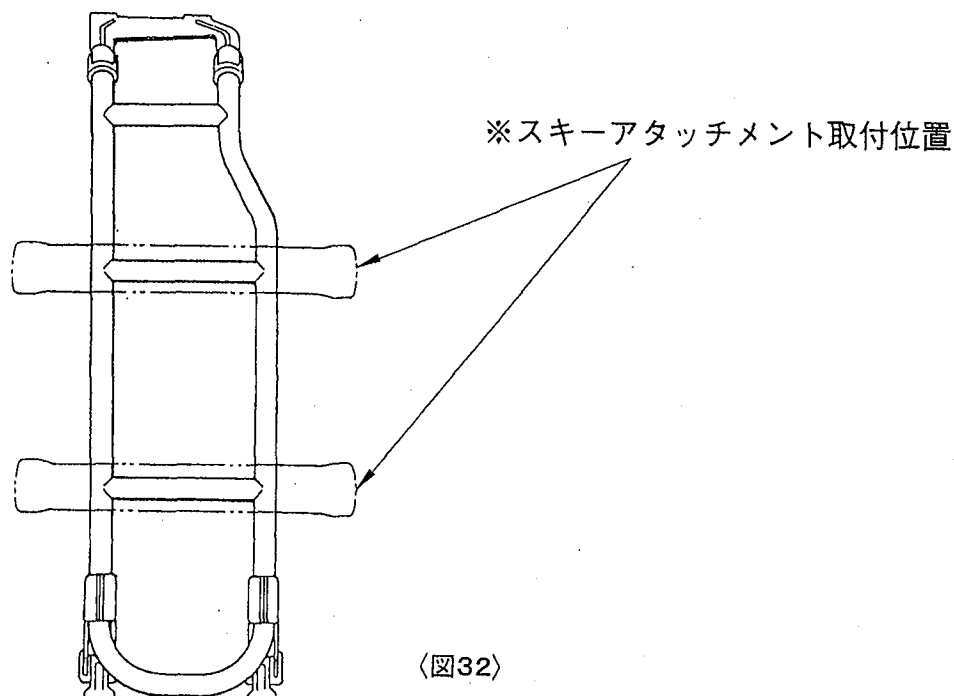
- 〈1〉リアハッチ及びハッチストッパーをしっかりと支えながら、リアハッチの開閉レバーを引いて、ハッチロックにロックされているU字金具を外してください。
- 〈2〉リアハッチ及びハッチストッパーをしっかりと支えながら、車両側のU字金具に差し込まれているハッチストッパー先端を引き抜いて、取り外してください。

【4】スキー用システムギアを取り付ける際には・・・

別売のリアラダー専用システムギア（下記参照）は、〈図32〉に示す部分に取り付けてください。
 〈図32参照〉

⚠注意

スキーアタッチメントの最もナンバープレート寄りの位置には、ナンバープレートが隠れる長さのスキーは積まないでください。



TERZO SPORTS PROJECT JAPAN

PIAA（株） 本社・青山 東京都渋谷区神宮前5-52-2 TEL 03-5423-5011